

庄内川水系流域治水プロジェクト

～東西を繋ぎ、日本経済を支える名古屋都市圏を
水害から守る流域治水対策～



国土交通省中部地方整備局 庄内川河川事務所 令和7年度 事業概要



みんねでまもる土岐川・庄内川

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

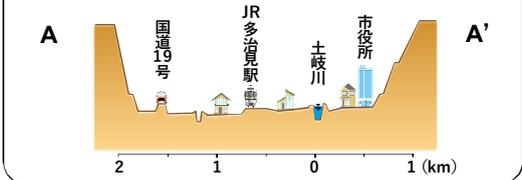
庄内川枇杷島狭窄部

庄内川流域の特徴

●庄内川流域の特徴



上流は盆地地形となっており、盆地上に市街地が形成される。勾配が急なため、氾濫すると下流方向に流れながら浸水する。

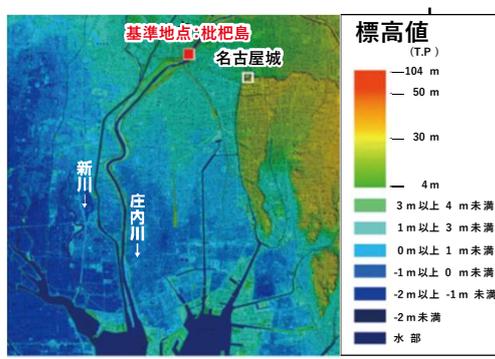


【段階的な直轄編入】

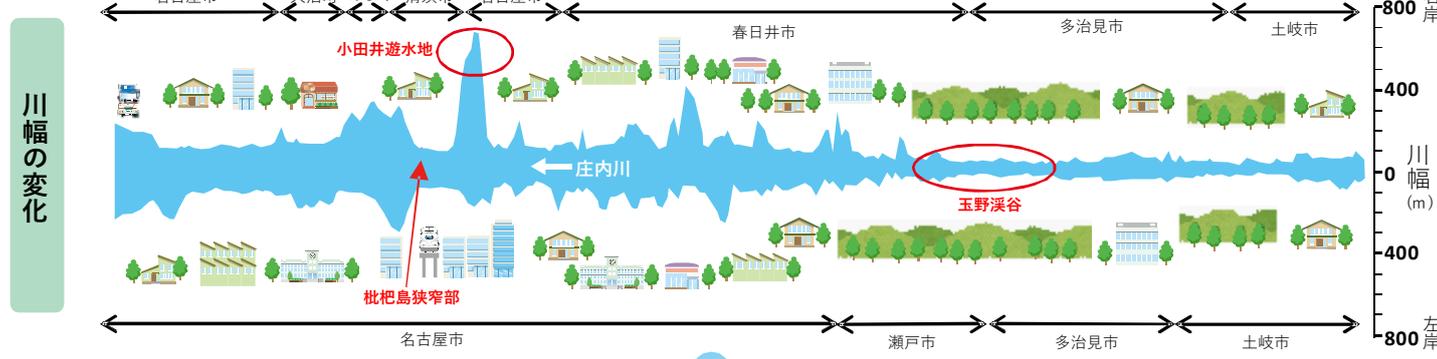
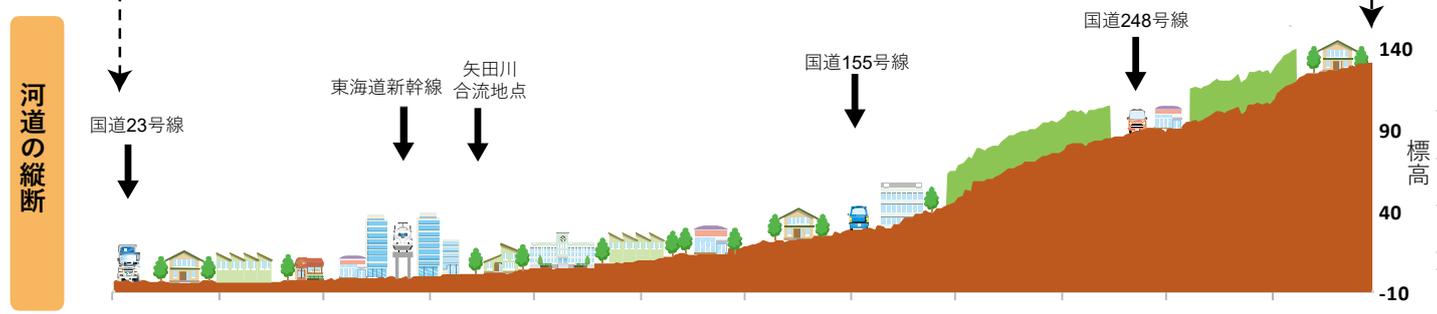
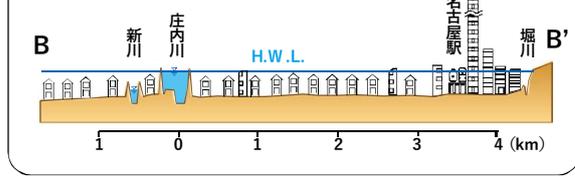
- 1968年～1976年の間、下流から順に直轄区域として指定されてきました。
- 八田川は一度直轄編入されましたが、2008年に愛知県へ移管されました。
- ※直轄区間とは、国土交通大臣が管理する一級河川の区間のことです。



下流のゼロメートル地帯



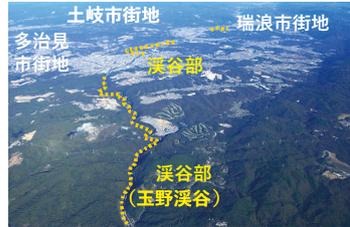
下流は、堤防の背後が低く平坦な特性を有し、ひとたび氾濫が発生すると広範囲へ浸水が拡大



庄内川は岐阜県恵那市夕立山から愛知県伊勢湾に注ぐ幹線延長96km、流域面積1,010km²の一級河川であり、下流には中部圏域最大の名古屋市が位置しています。流域内の人口は約430万人と非常に多く、他地域とを繋ぐ重要な交通網を数多く抱えている都市型河川です。一方、下流は日本一のゼロメートル地帯を有する水害リスクの高い地域となっています。

上流部

- 上流部は盆地と溪谷を繰り返しながら、瑞浪市・土岐市・多治見市の市街地を流下しています。
- 河川敷は狭く、盆地部でわずかにみられる程度です。



中流部

- 中流部は川幅の狭い区間、広い区間を繰り返し、河川内には広い高水敷が発達しています。
- 沿川は高度経済成長期以降から、大規模な土地区画整理事業が行われています。



下流部

- 下流部は矢田川合流点の直下で川幅が大きく広がり、洪水時に計画的に水を貯めるための小田井遊水地が整備されています。
- その下流には「枇杷島狭窄部」が位置し、沿川は中部圏の最大都市である名古屋市街地が広がっています。



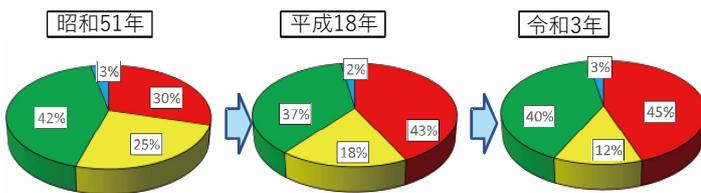
河口

- 干潟とヨシ原が広がり、国内最大級のシギ・チドリの渡来地である藤前干潟が存在するなど、都市河川でありながら、豊かな河川環境も有しています。



市街地の発展・人口の推移

庄内川の沿川では、昭和51年頃に比べて市街地が15%増加しており、昔は山地や農地であった部分に市街地が形成されています。平成の後半以降から、市街化はやや鈍化傾向にありますが、下流部は、ほぼ全域に亘って市街地が形成されています。

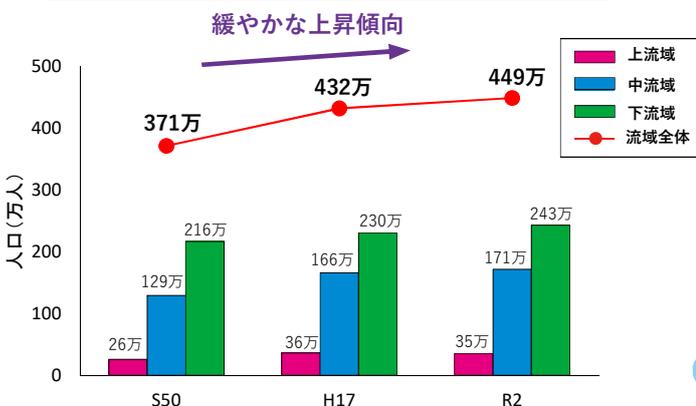


流域の土地利用の割合

また、市街地の発展に伴い、沿川市町の人口も緩やかに増加しており、中下流域は流域全体の約90%以上の約400万人が集積しています。

庄内川沿川は、守るべき資産が多く、ひとたび氾濫が起こると甚大な被害の発生が予想されます。

流域関連市町の人口の変化



コラム：庄内川沿川のトピック（名古屋駅周辺再開発）

- 名古屋駅周辺では、リニア中央新幹線の開業に向け、名古屋大都市圏の玄関口として発展するための空間づくりが進行しています。
- 防災性の向上も重要な取組みとして位置付けられ、名古屋駅周辺では東海豪雨以降、浸水対策も進められています。

名駅前ポンプ所工事を伴うロータリー工事



庄内川流域の歴史

●過去に実施されてきた大規模工事

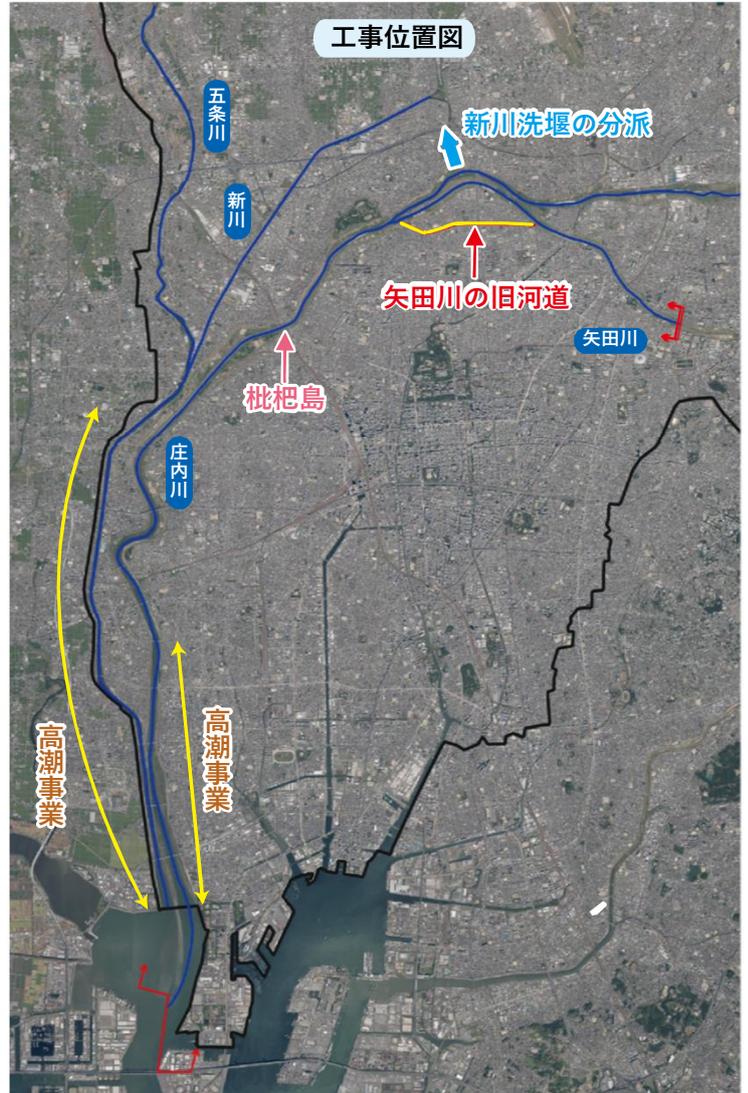
江戸時代、庄内川河口付近一帯の干拓により、川の流れが悪化して河床が徐々に上昇し、庄内川下流部では洪水が頻発するようになりました。洪水を防ぐため、尾張藩藩主徳川宗睦（むねちか）の命により、天明4年（1784年）に新川の開削と新川洗堰の築造が開始されました。その他にも、枇杷島狭窄部における工事等、大規模な事業が実施されてきました。

工事年表

年	工事内容
1787年 天明7年	新川開削
1787年 天明7年	新川洗堰の築造
1873年 明治6年	堀川上流部開削
1932年 昭和7年	矢田川付け替え
1952年 昭和28年	新地蔵川開削
1958年 昭和33年	枇杷島「中島」の撤去
1959年 昭和34年	伊勢湾等高潮対策事業

枇杷島狭窄部の過去と現在

以前、庄内川の河口から14k～15kの付近の狭窄部には中島（土砂が堆積し、陸地となっている箇所）が存在し、洪水の流れの妨げとなっていました。昭和33年に撤去されました。



新川洗堰の築造

庄内川の水の一部を、新川洗堰から分流し、新たに放水路として開削した新川より伊勢湾に流れるようにすることで、洪水時の水位低下を図りました。洗堰は、庄内川右岸堤防の一部を切り落として造られた堰で、天明7年(1787)に完成し、庄内川流域の災害を防ぎ、開拓を推進してきた歴史があります。



河口付近一帯の干拓が実施された後、庄内川では洪水が頻発していました。その対策として、河川の流量配分を変える大規模な工事（新たな河川の開削、新川洗堰の築造）が実施されてきました。

●姿を変えてきた庄内川

大規模事業によって、庄内川における流量の一部を分派させてきました。

整備段階	工事内容	工事状況
①	新川開削	庄内川に平行する放水路「新川」を開削し、それまで庄内川に直接流入していた地蔵川や木津用水、五条川などの中小河川を新川に流入させることにしました。
②	堀川上流部開削	犬山と名古屋を結び舟運と農業用水の取水を目的に、庄内川を守山区水分橋付近で分岐させ、矢田川の下を伏越する堀川の上流部が開削されました。
③	矢田川付け替え	輪中地区の水害を防ぐため、矢田川の付け替え工事が行われました。
④	新地蔵川開削	八田川を伏越し新地蔵川が開削され、地蔵川の水は新川に排水されることとなりました。

※伏越とは、水路が河川・鉄道・道路などの障害物と交差する場合、それらの底部以下にまで下げて横断する管路のことです。



これまでの水害と治水対策

●庄内川の主な洪水と治水対策

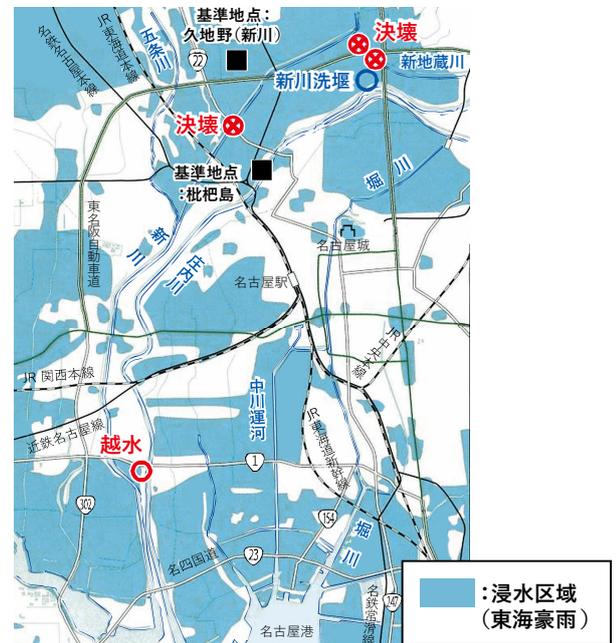
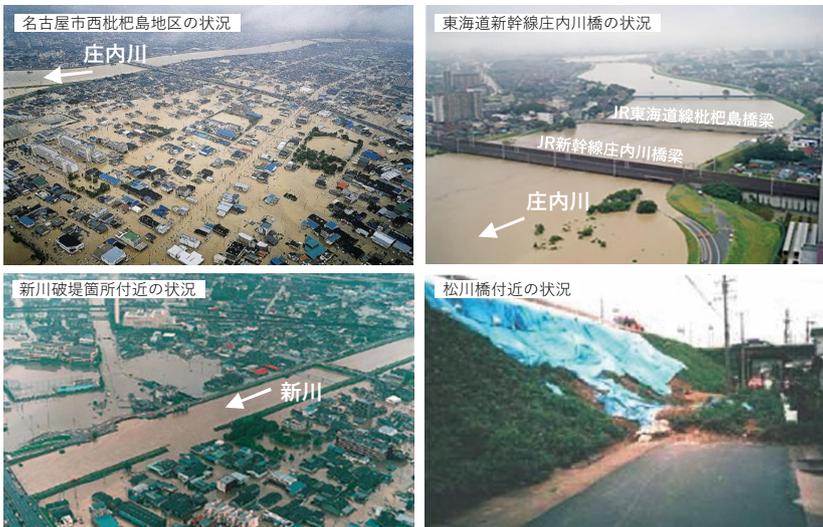
年度	できごと	洪水	治水対策
昭和7年	矢田川の付け替え工事完成		
1 昭和32年	秋雨前線	被災家屋：22,428戸(愛知県)、4,540棟(岐阜県)	
昭和33年	枇杷島「中島」の撤去完成		
2 昭和34年	台風15号(伊勢湾台風)	被災家屋：140,568棟(愛知県)、6,227棟(岐阜県)	
昭和36年	梅雨前線 台風6号	水害区域面積：7,374ha(愛知県)、479ha(岐阜県) 被災家屋：39,604棟(愛知県)、171棟(岐阜県)	
3 昭和47年	梅雨前線	水害区域面積：229.3ha(愛知県)、344.8ha(岐阜県) 被災家屋：832棟(愛知県)、1,515棟(岐阜県)	
昭和50年	梅雨前線	水害区域面積：3,091.5ha(愛知県)、96.9ha(岐阜県) 被災家屋：10,315棟(愛知県)、107棟(岐阜県)	
昭和51年	台風17号	水害区域面積3,477ha(愛知県) 被災家屋：8,713棟(愛知県)	
昭和58年	秋雨前線 台風10号	水害区域面積：526.6ha(愛知県)、8.4ha(岐阜県) 被災家屋：7,871棟(愛知県)、164棟(岐阜県)	
4 昭和63年	熱帯低気圧 秋雨前線	水害区域面積：317.9ha(愛知県)、111.9ha(岐阜県) 被災家屋：1896棟(愛知県)、94棟(岐阜県)	
5 平成元年	台風22号	水害区域面積：27.6ha(愛知県)、62.1ha(岐阜県) 被災家屋：84棟(愛知県)、571棟(岐阜県)	
平成元年	小田井遊水地概成		
6 平成3年	台風18号 秋雨前線	水害区域面積：965.9ha(愛知県)、3.9ha(岐阜県) 被災家屋：6,440棟(愛知県)、16棟(岐阜県)	
7 平成11年	梅雨前線	水害区域面積：11ha(岐阜県) 被災家屋：1棟(愛知県)、120棟(岐阜県)	
平成12年	東海豪雨(台風14号)	被災家屋：34,041棟(愛知県)、8棟(岐阜県)	
平成12年	河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)の採択		
平成16年	小里川ダム建設事業・激特事業の完成		
8 平成23年	台風15号	水害区域面積：186.5ha(愛知県)、1.6ha(岐阜県) 被災家屋：670棟(愛知県)、16棟(岐阜県)	
令和3年	前線	水害区域面積：0.4ha(岐阜県) 被災家屋：15棟(岐阜県)	



～覚えていませんか?～東海豪雨

東海豪雨は、平成12年9月11日未明から12日までに観測史上最大の総雨量567mmを記録し、庄内川の越水、新川の堤防決壊や内水氾濫が発生しました。氾濫面積は19 km²に及ぶなど甚大な被害となりました。

東海豪雨の発生後、東海豪雨と同様な降雨が発生しても、浸水被害を最小限に留めることができるように緊急的・集中的な治水事業(激特事業)が平成16年まで実施されました。



激特事業とは、洪水や高潮等により大きな被害が発生した地域において、再度災害防止を図るため、概ね5カ年で、緊急に河川改修を行う事業です。

庄内川では、これまで数多くの洪水による甚大な浸水被害を経験してきましたが、それらの被害を防止・軽減するために、河川整備を（堤防整備、掘削、ダム建設・遊水地整備等）を継続して実施したことにより、過去に比べて洪水に対する安全度は高まってきました。

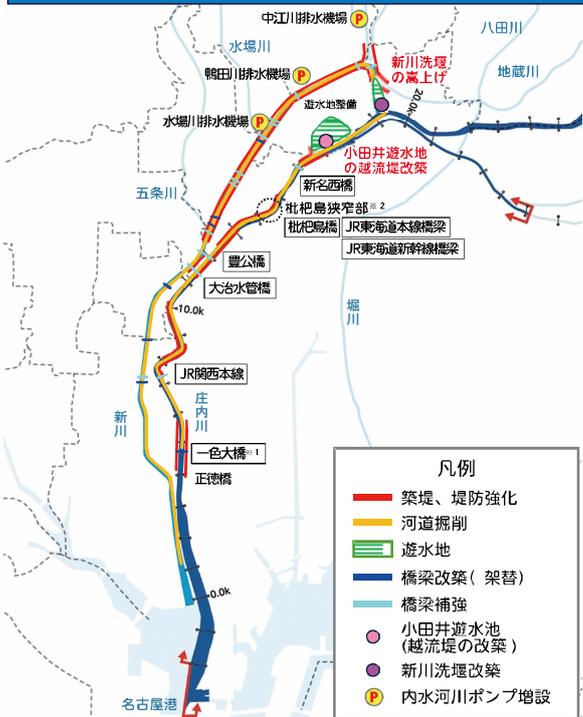
●庄内川でのこれまでの整備事業



激特事業の実施

平成12年に発生した東海豪雨を契機とし、下流部の河道掘削や洗堰・小田井遊水地の改築、築堤・堤防の強化など幅広い整備が行われました。（河道掘削140万m³、堤防整備13.6km）

庄内川・新川河川激甚災害対策特別緊急事業の概要



庄内川における河道掘削（愛知県名古屋市中川区）



庄内川における堤防整備（愛知県海部郡大治町）



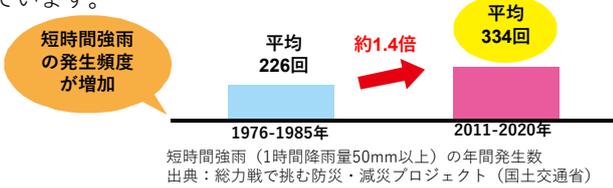
※1 庄内川特定構造物改築事業（国道1号一色大橋） 平成12年～平成23年
 ※2 庄内川特定構造物改築事業（JR新幹線庄内川橋梁） 平成14年～令和13年

庄内川流域のリスク

近年、毎年のように全国で大型の台風や豪雨による水害が発生しています。何故、水害が頻発しているのでしょうか？

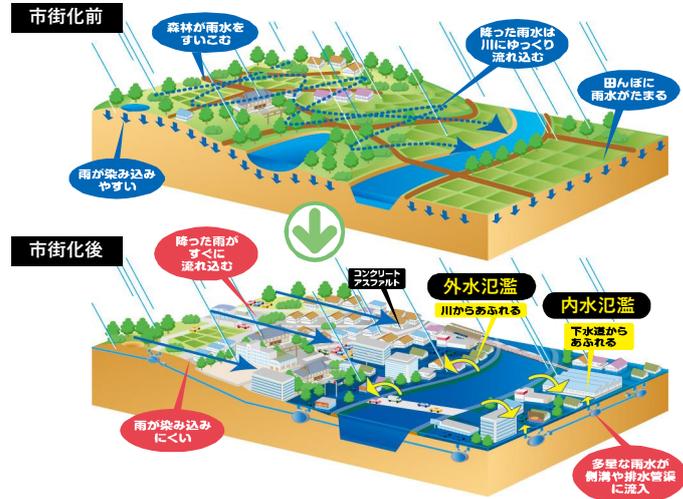
集中豪雨の頻度が増加しているから

1時間雨量が50mm以上という短時間強雨が、過去30年で約1.4倍に増えています。これは、気候変動による影響と言われています。



保水力が低下しているから

森林減少や都市化の進行で、降った雨が一気に河川に流れ込むため、氾濫が起こりやすくなっています。



コラム：外水氾濫と内水氾濫について

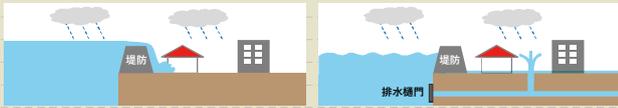
河川や下水道からの氾濫は、大きく外水氾濫と内水氾濫に分類され、それぞれ異なる要因で発生し、氾濫の規模や勢いも異なります。

外水氾濫とは

河川の水位が上がり、堤防が決壊したり、溢れたりして氾濫が生じる現象。

内水氾濫とは

排水先河川の水位が高くなり、地表面に降った雨が、河川に排水できずに氾濫が生じる現象。



庄内川流域では、特に市街化の進展が著しい地域も多く、気候変動による影響と相まって、河川からの外水氾濫だけでなく、内水氾濫に対する浸水リスクの増加も懸念されます。こうした浸水リスクは何を確認すれば良いのでしょうか？

- 庄内川からの外水氾濫による浸水リスク → 多段階の浸水想定想定図、水害リスクマップ（令和4年9月公表）
- 庄内川及びその支川、下水道からの氾濫による浸水リスク → 内外水統合型の多段階の浸水想定想定図、水害リスクマップ（令和7年3月公表）

庄内川水系 直轄区間の外水氾濫のみの水害リスクマップ

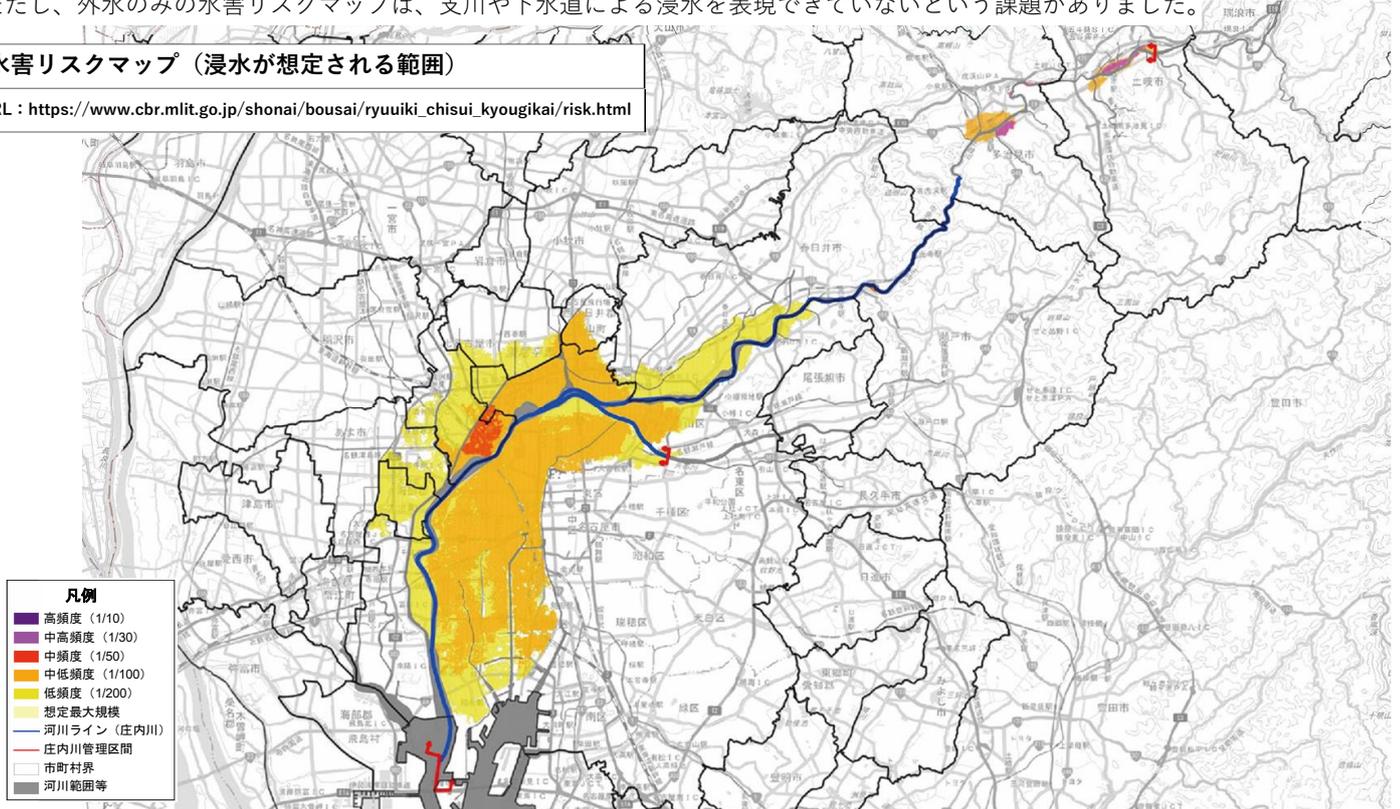
水害リスクマップは降雨の発生頻度に応じて、「浸水が想定される範囲」を示した図面となります。（床上浸水が想定される範囲や2階以上の浸水が想定される範囲も公表しています）。

庄内川の下流域は、ゼロメートル地帯の低地帯が広がり、中低頻度（1/100）以上で浸水範囲が広がっています。また、堤防の背後が低く平坦な特性を有しているため、ひとたび庄内川から氾濫した場合、家屋2階以上の浸水も想定されています。

ただし、外水の水害リスクマップは、支川や下水道による浸水を表現できていないという課題がありました。

水害リスクマップ（浸水が想定される範囲）

URL : https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/bousai/ryuuki_chisui_kyougikai/risk.html

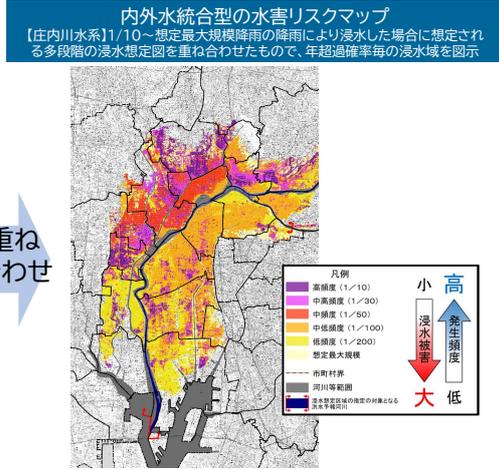
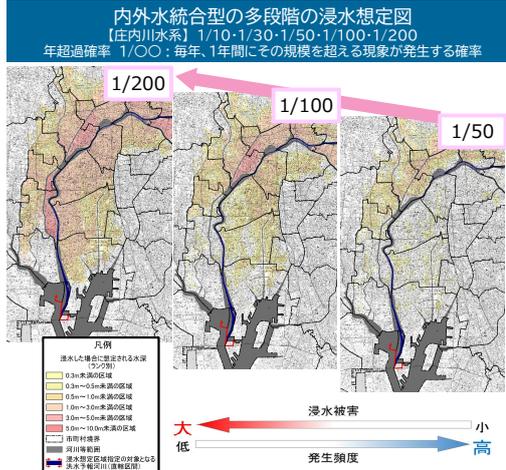


庄内川は令和4年9月に、多段階の浸水想定図・水害マップが公表されました。さらに、令和7年3月には、複数の降雨規模に対して、庄内川及び庄内川支川・下水道からの氾濫リスクを一体的に把握可能な『内外水統合型の多段階の浸水想定図や水害リスクマップ』が公表され、降雨の規模に応じた浸水リスクを網羅的に把握することが可能です。

●内外水統合型の多段階浸水想定、水害リスクマップとは

国土交通省では、より浸水リスクを身近に把握する試みとして、比較的発生頻度が高い複数の降雨規模（1/10規模、1/30規模降雨など）に対する浸水想定に把握に取り組んでいます。

加えて、外水氾濫だけでなく内水氾濫も考慮した多段階の浸水想定図やこれらを重ねる水害リスクマップの作成に取り組んでおり、庄内川河川事務所では、令和7年3月28日に公表しました。



重ね合わせる

コラム：これまでの外水氾濫による浸水想定との違いについて

浸水は国管理区間の崖線氾濫だけでなく、支川や中小河川での氾濫や内水氾濫も含めて発生するため、これらの浸水リスクも考慮して作成した図面となります。



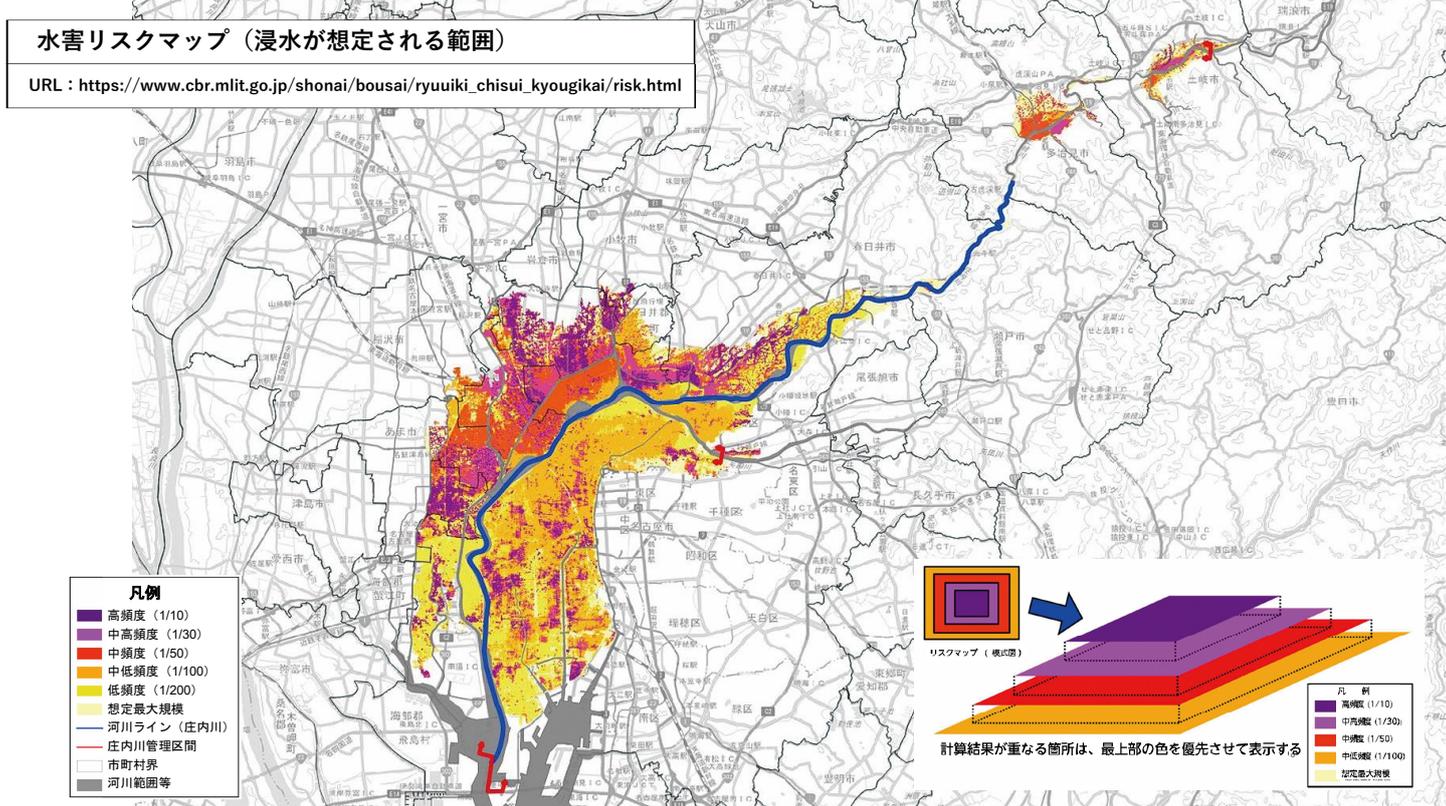
1/10 規模降雨ってどんな降雨?

毎年1年間に、その規模を超える洪水が発生する確率が1/10（10%）であることを示します。

サイコロに例えると、サイコロを振って1が出る確率がいつも1/6になることと同じ考え方で、10年に一度しか起こらないとは限らず、二年続けて起こる可能性もあります。

庄内川水系 内外水統合型の水害リスクマップ

支川からの氾濫や下水道による浸水を把握するため、内外水統合の水害リスクマップを作成しました。外水の水害リスクマップと比べて、高確率規模（1/10、1/30）の浸水範囲が増加しています。低確率規模（1/200）においても、庄内川・下流部の左岸側で、浸水範囲増加が見られます。名古屋市中心とする都市部の浸水リスクを、より詳細に把握できるようになりました。





●流域治水の考え方

毎年のように大型の台風や豪雨が発生し、全国各地で甚大な水害が発生しており、今後、こうした状況はさらに激しくなる可能性があります。庄内川では、これまで数多くの“治水対策が行われ、洪水に対する安全度は高まってきましたが、降雨規模の増大や浸水の複雑化により、治水対策の継続を行うとともに、治水対策では防ぎきれないことも想定し、河川の流域全体で、みんなで水災害対策に取り組んでいく必要があります。

河川に流れ込む雨水の量を少しでも減らすために、河川の氾濫が起きてしまっても、被害を最小限にするために、流域治水が必要です。

これまでは…

「治水」⇒河川で行なうこと
行政の河川担当者が行なうこと

安全な河川にするために頑張ります！



プラス

これからは…

森林や田んぼでも



家庭でも



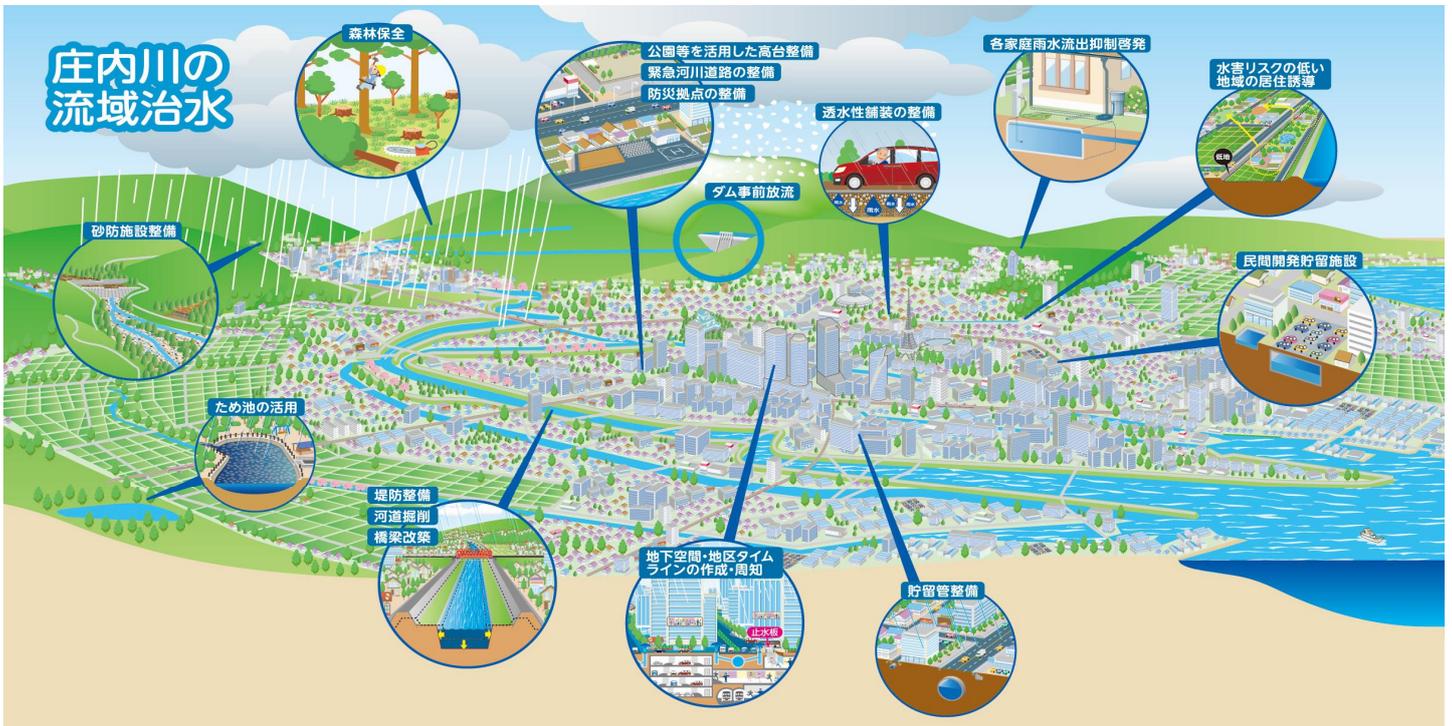
まちづくりでも



学校や公園でも



集水域から氾濫域までを1つの流域と捉え、河川管理者だけでなく、流域に関わる関係者が主体的に治水に取り組み、流域全体で水害を軽減させる考え方は。



コラム：集水域、氾濫域とは？

●降った雨がその河川に流れ込んでいる全範囲を集水域（≒流域）といいます。

●洪水が起きたときに、河川から水があふれて浸水してしまう範囲を氾濫域といいます。

この線が流域の
分かれ目です



この範囲が
氾濫域です



流域治水は、河川管理者だけでなく、流域に関わるあらゆる関係者が協働して水災害対策を行う考え方です。氾濫を防ぐ対策だけでなく、河川への流出を減らす対策や被害対象を減少させるための対策、被害の軽減や早期復旧のための対策など、多岐に亘る対策を、流域内のあらゆる関係者が協力して対策を進めていきます。

●流域治水における具体的な対策

流域治水では、大きく3つの柱に基づき、ハード・ソフト対策を、一体的・多層的に進めていきます。

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

②被害対象を減少させるための対策

③被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

①氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

これまでの河川での整備に加え、集水域で水をできるだけ貯めることで、「河川の氾濫を防ぎ、減らす」ことを目指します。

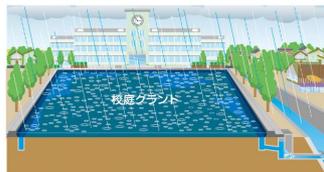
集水域 雨水を貯めて、川に流れ込む水の量を減らします。

●森林整備



適切な管理で、土砂や雨水を留める。

●校庭・公園貯留

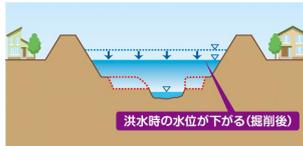


校庭や公園で雨を貯める。

河川区域 河川・遊水池などの整備で、氾濫を防止・軽減

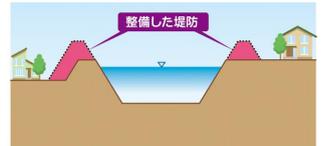
●河川整備

河道掘削（川底を掘る対策）



川底を掘り、流せる水を増やす。

堤防整備



堤防の嵩上げ、新たに堤防の整備を行う。

●遊水池などの整備



大雨で河川の水位が上がった時に、水を一次的に貯める。

氾濫域 施設設計・施工・点検の高度化

DXの推進

●BIM/CM 適用による3次元モデル活用



●水中ドローンによる河川構造物の点検

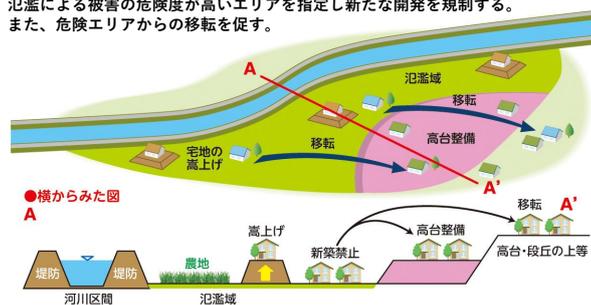


②被害対象を減少させるための対策

危険場所を指定して規制したり、安全な場所への移転を促すことに加えて、浸水範囲を広げないような堤防を整備・保全することで「被害対象（住宅や工場など）を減らす」ことを目指します。

氾濫域 危険な場所を避けた「住まい方」の工夫

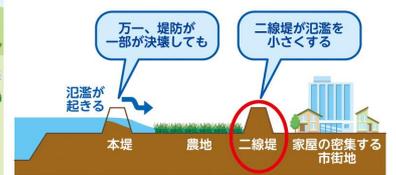
氾濫による被害の危険度が高いエリアを指定し新たな開発を規制する。また、危険エリアからの移転を促す。



氾濫域 浸水範囲を広げないための対策



☆二線堤⇒川が氾濫しても下流に水が流れないように、住宅地側にある堤防のこと
☆輪中堤⇒集落など、特定の区域を守る堤防のこと



③被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

避難路を整備し、避難計画を策定しておくなど、「被害をできるだけ減らし、早く復旧・復興する」ことを目指します。

氾濫域 避難施設の整備

逃げ遅れた人が一時的に非難するための場所として、高台避難場所を作る。



氾濫域 迅速な災害情報の把握

浸水時にセンサーが水を感知すると、システムにデータが自動送信される。



氾濫域 防災教育

現実世界にARを合成し、実際の浸水状況を体験する。



DXとは？

デジタル技術を活用することで、業務やサービスを変革することを目指します。

BIM/CIMとは？

3次元モデルを基盤とした設定・施工、維持管理のプロセスを指します。

DXの推進

流域治水対策

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

● 河川整備（掘削、堤防整備、橋梁改築など）



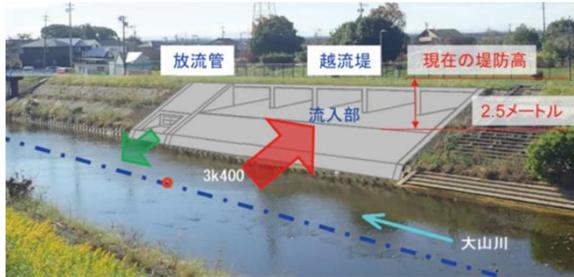
河道掘削（庄内川河川事務所）



準用河川整備（小牧市）



堤防整備（一宮市（準）千間堀川）



大山川遊水地の整備



【特定構造物改築事業】引堤及び橋梁の架け替え

● 雨水貯留施設・貯留管の整備（名古屋市など）



貯留管等の整備（名古屋市）



雨水貯留施設の整備（北名古屋市）



雨水貯留施設の整備（大治町）

● 内水被害軽減対策 ・ 雨水排水網の新設・増強、ポンプ場の新設増強



雨水排水網の新設・増強雨水排水路（多治見市）



雨水排水網の増強（名古屋市）



地蔵川排水機場の整備（愛知県）

● 農業用ため池の活用（多治見市など）

・ 既設施設の事前放流、堆積土砂の浚渫等 ・ ため池の機能強化



河川・ため池・調整池の堆積土砂の浚渫（名古屋市）

● 森林保全、透水性舗装（岐阜県など）

・ 間伐等森林整備による洪水緩和機能の保全・強化



森林保全のイメージ

庄内川流域では、気候変動の影響に伴う降雨量増加や土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少を踏まえ、河川区域での堤防整備や掘削等の更なる治水対策に加えて、貯留・遊水機能を有する土地の保全・活用や水害リスク情報充実の取組等の集水域や氾濫域での対策を推進していきます。

②被害対象を減少させるための対策

●浸水防止塀設置の支援



浸水防止塀設置の支援（扶桑町）

●水害リスクを考慮した居住誘導



居住誘導のイメージ

●市民への土のう配布



出水期前に希望する市民への土のうの事前配布（春日井市）

③被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

●公園等を活用した高台の整備

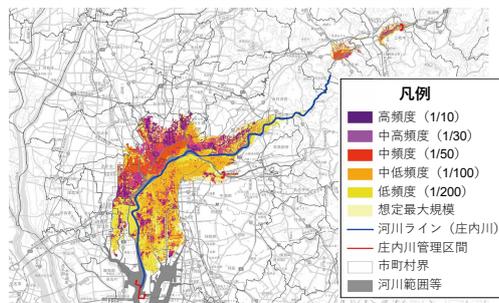


公園等を活用した高台の整備（名古屋市）

●水防協力団体の指定



●水害リスクマップの作成



●防災拠点の整備

- ・一次避難地となる防災公園整備
- ・後方支援を担う基幹的防災拠点の整備
- ・防災拠点の整備



防災拠点の整備（愛知県）

●ワンコイン浸水センサの設置（春日井市）



陸橋付近の橋脚 水路付近の通路 冠水しやすい市道

●危機管理型水位計・監視カメラの設置・増設

- ・ライブカメラ等による水位情報等の配信



監視カメラの設置・増設（稲沢市）

監視カメラの設置・増設（長久手市）

●地区タイムラインの作成・周知（恵那市）



タイムラインの作成・周知（多治見市）

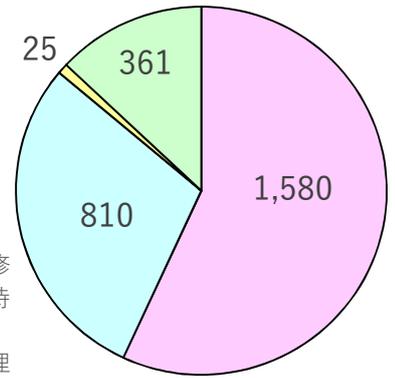
令和7年度事業概要

令和7年度 事業実施箇所

⑦ 河川の維持管理（管内全域）



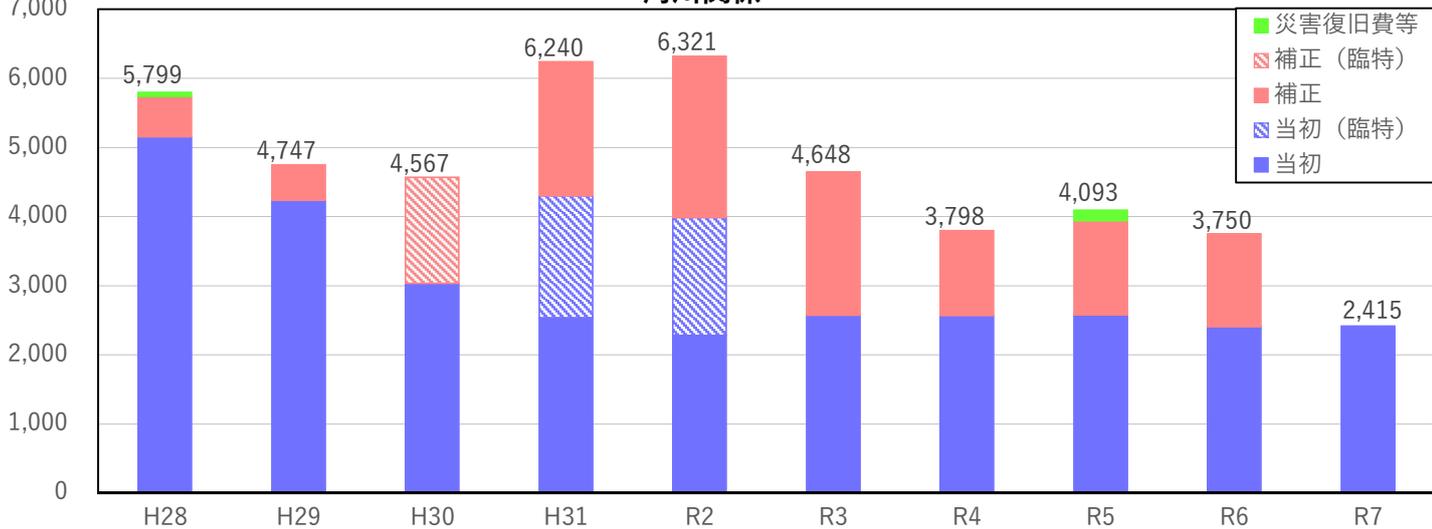
令和7年度事業費
2,776百万円



- 河川改修
- 河川維持
- 環境
- ダム管理

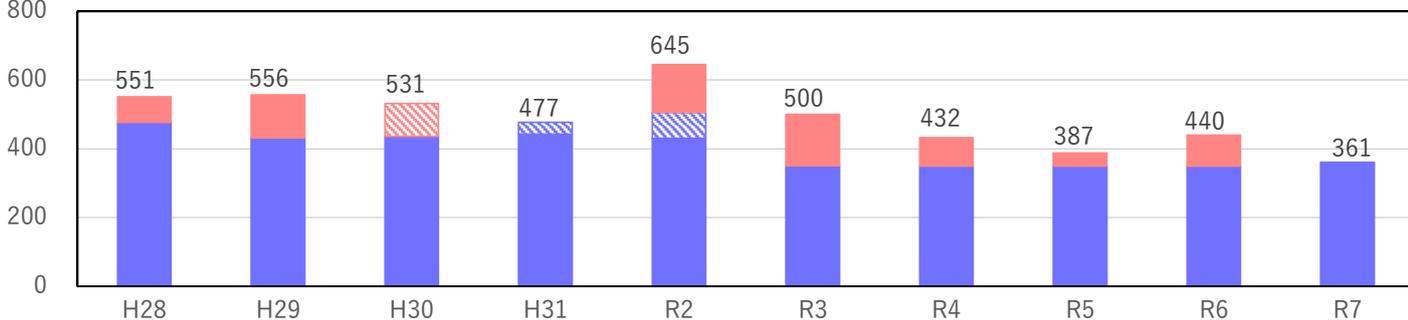
(百万円)

河川関係



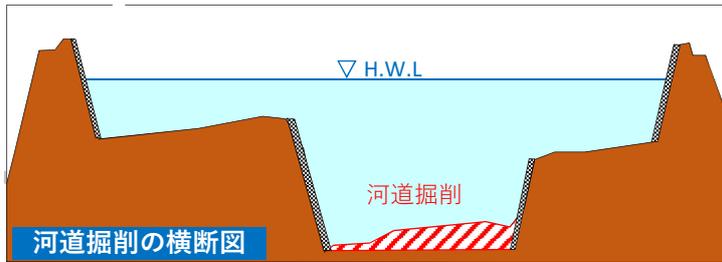
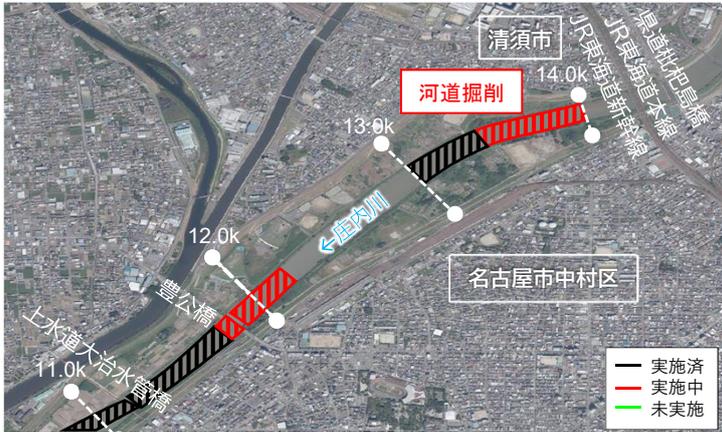
(百万円)

小里川ダム関係



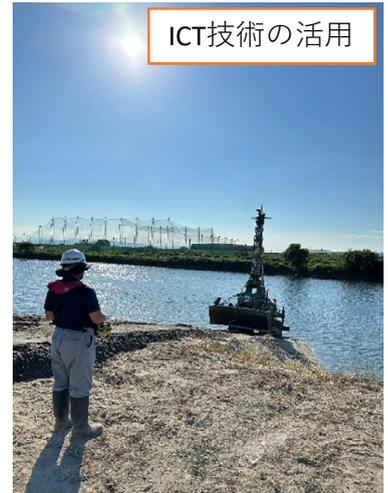
1 河道掘削（日比津地区）

現在、庄内川下流部の日比津地区（河口から10.0～13.0k付近）では、平成12年9月洪水（東海豪雨）規模の洪水が流下した時に水位が上昇し、安全に流すことが出来ないため、河川整備計画に基づき治水安全度の向上を図るための河道掘削を実施しています。



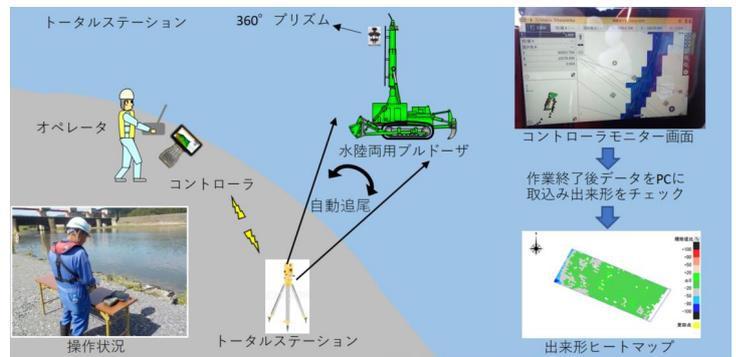
日比津地区河道掘削では、遠隔操縦式の水陸両用ブルドーザーを用いることで、安全かつ効率的な施工を実施しています。

陸上に自動追尾型トータルステーションを設置することで掘削高を自動計測し、オペレータがコントローラ画面上に表示されたヒートマップ（掘削高）を確認しながら出来高を管理しています。



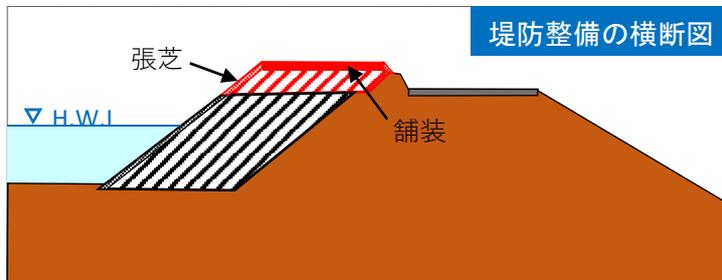
ICT技術の活用

遠隔操縦による施工状況



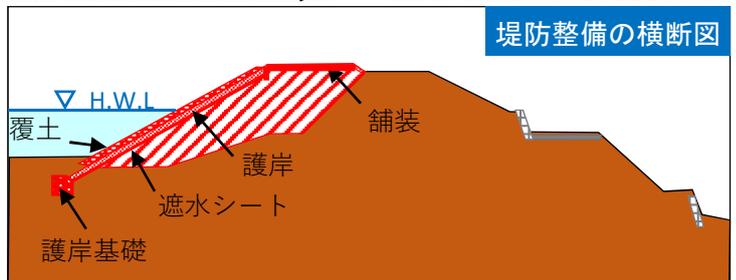
2 堤防整備（小田井地区）

現在、小田井遊水地（河口から右岸16.0～17.6k付近）では、周囲堤の高さや幅が不足しており、洪水貯留時に安全性が不足しているため、河川整備計画に基づき治水安全度の向上を図るための周囲堤整備を実施しています。



3 堤防整備（大野木地区）

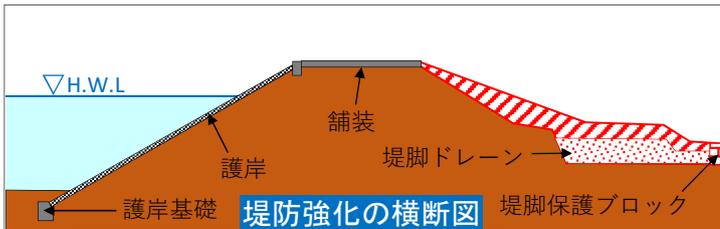
現在、庄内川下流部の大野木地区（河口から右岸17.8～19.0k付近）では、堤防の高さや幅が不足しており、洪水を安全に流すことができないため、河川整備計画に基づき治水安全度の向上を図るための堤防整備を実施しています。



令和7年度事業概要

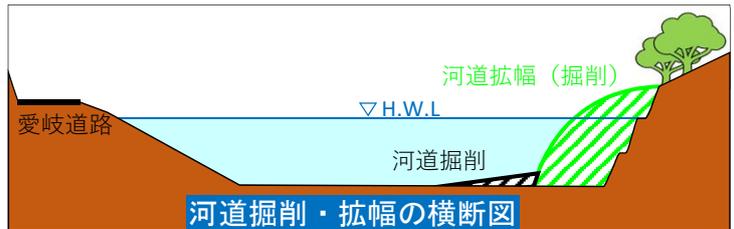
4 堤防整備（上条地区）

現在、庄内川中流部の上条地区（河口から右岸29.0～30.6k付近）では、堤防の幅が不足しているとともに、浸透に対する安全性が不足しており、洪水を安全に流すことができないため、河川整備計画に基づき治水安全度の向上を図るための堤防強化（浸透対策）を実施しています。



5 河道掘削（月見地区）

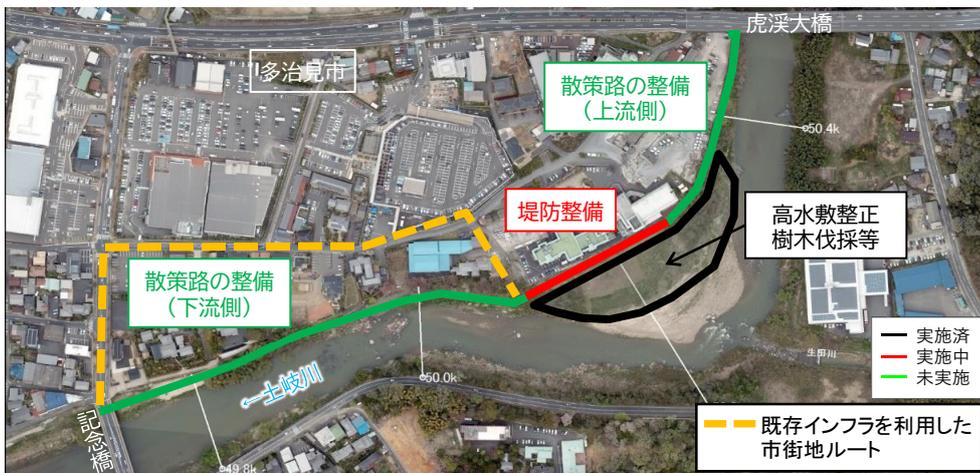
現在、庄内川上流部の月見地区（河口から46.3～47.2k付近）では、平成元年9月洪水規模の洪水が流下した時に水位が上昇し、安全に流すことが出来ないため、河川整備計画に基づき治水安全度の向上を図るための河道掘削・河道拡幅を実施しています。河道拡幅にあたっては、環境や景観の保全に着目しながら設計を進めています。



6 かわまちづくり（多治見市）

現在、庄内川上流部の豊岡上流地区（河口から49.8～50.6k付近）では、土岐川上下流区間の連続性・観光拠点を含めたまち全体の周遊性や、新たな魅力創出を図るため「多治見市かわまちづくり計画（上流区間）」を策定しました。

河川整備計画及び「多治見市かわまちづくり計画（上流区間）」に基づき、多目的空間や散策路の整備を施工中です。



～最近の水害による事業効果（令和5年6月洪水）～

小里川ダムによる洪水調節効果

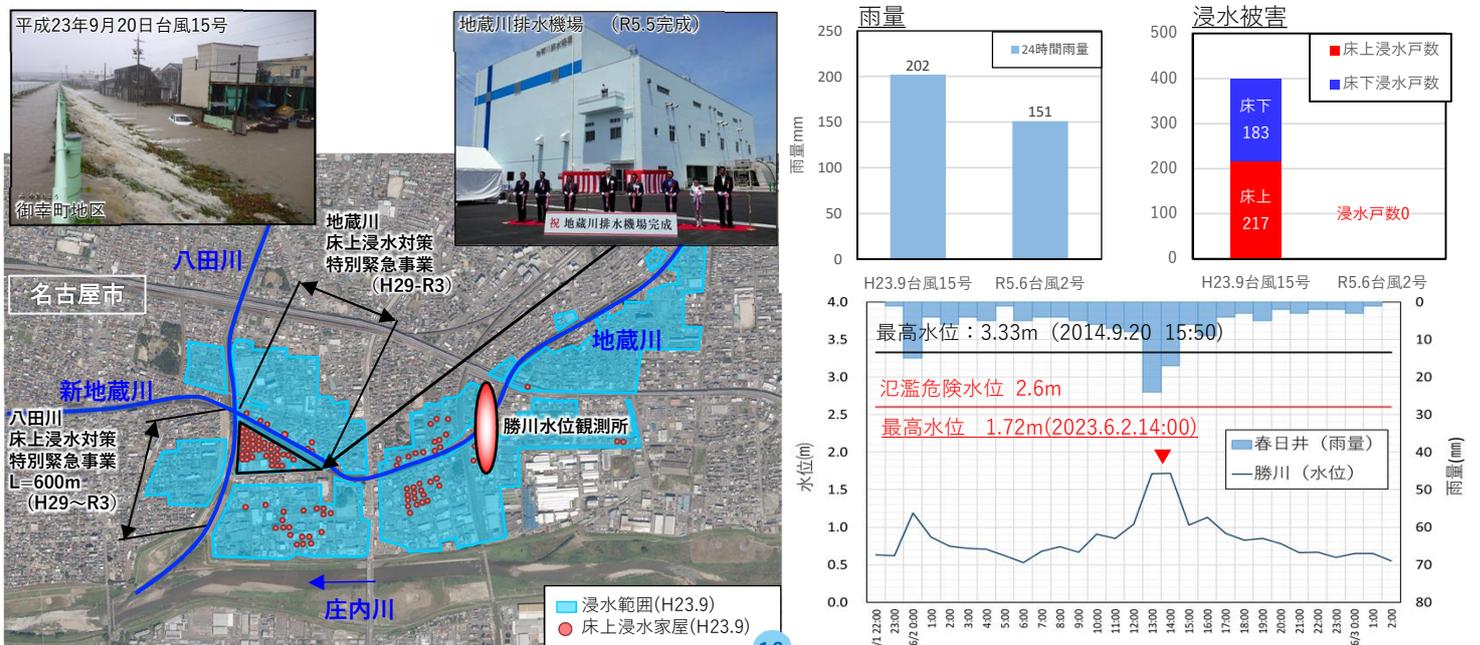
小里川ダムの洪水調節（防災操作）により、小里川ダム地点では下流に流れる洪水の量を**最大約150m³/s軽減**しました。これにより、岐阜県土岐市泉町河合地先では、**約30cmの水位を低減**する効果があったと推定されます。



※ダムが無い場合の水位及び最大被害想定は、簡易的な手法を元に算出しております。
※本資料の数値等は、速報値及び推定値であるため、今後の調査により変わる可能性があります。

地蔵川排水機場（愛知県）による治水事業効果

24時間雨量151mm（H23.9洪水24時間雨量202mmの3/4程度）を記録しましたが、地蔵川排水機場の運転によって約40万m³排水したことで、**地蔵川の水位を下げて浸水被害を防止**しました。 **今回の出水では被害なし！**



庄内川特定構造物改築事業

●庄内川特定構造物改築事業

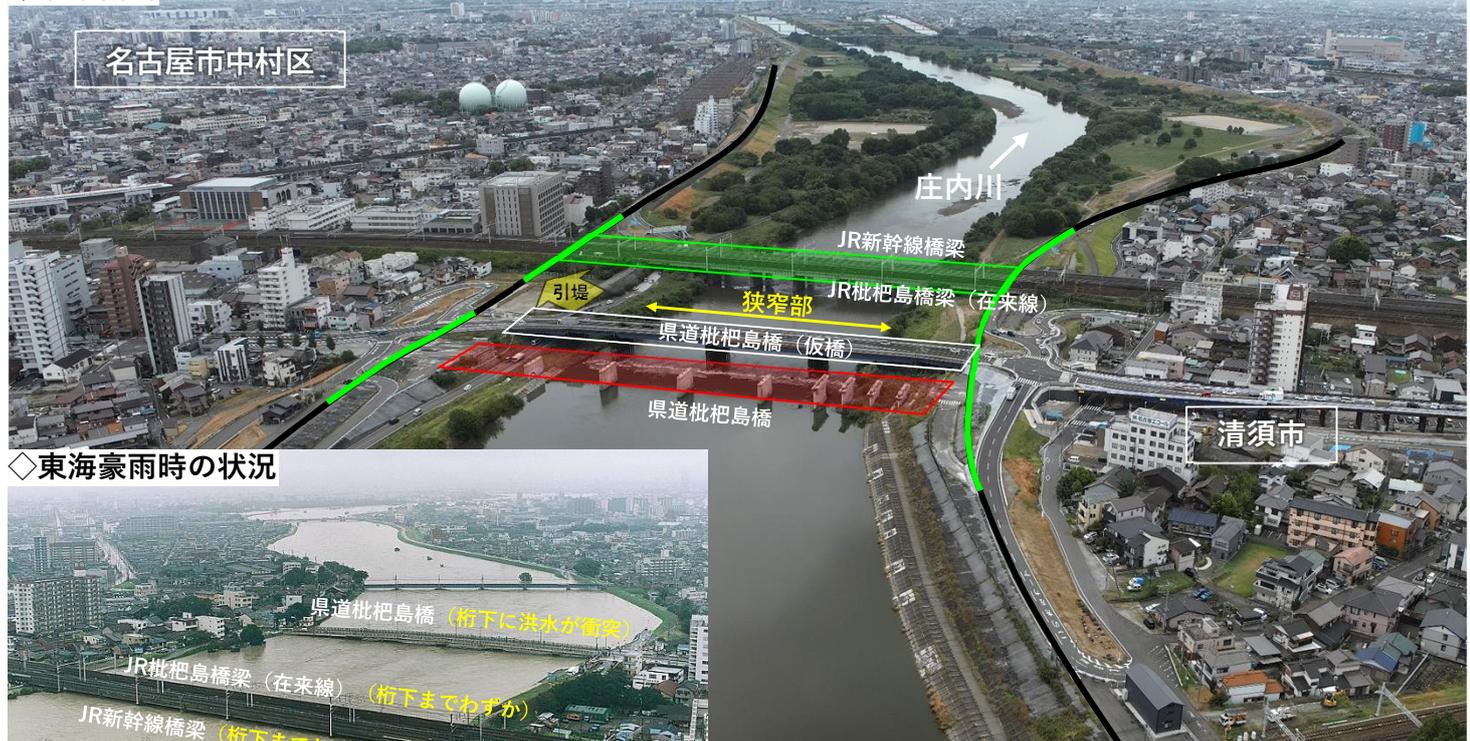
◇位置図



庄内川下流部の枇杷島地区（河口から14k付近）は、川幅が狭い狭窄部であるとともに桁下高が低く橋脚の間隔が狭い橋梁が連続して横河しており、洪水の流下に大きな支障が生じています。特に、平成12年9月東海豪雨では、県道枇杷島橋の桁下に洪水が衝突するなど危険な状況でした。

このため、河川整備計画に基づき治水安全度の向上を図るため、「特定構造物改築事業」により、引堤及びそれに伴う3橋梁の架替を実施しています。

◇事業箇所

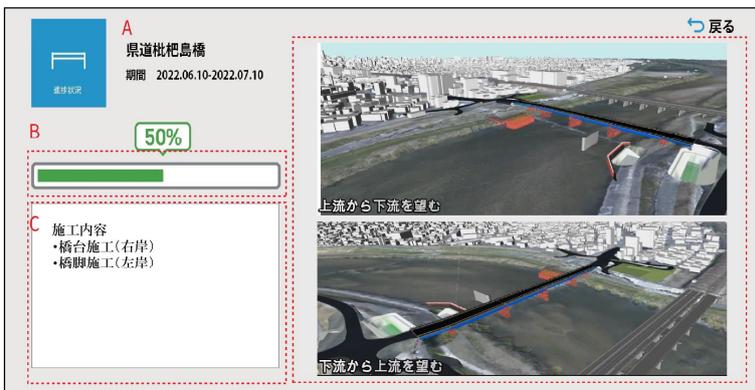


◇東海豪雨時の状況



BIM/CIMの活用

県道枇杷島橋の架替にあたっては、三次元設計（CIM）を活用し、工程（時間軸）と関連付けた四次元工程表を作成し、図面等の確認や、施工ステップ毎の綿密な情報共有・調整に活用しています。工事施工段階においてもCIMを危険予知活動などに活用し、安全で効率的な施工に取り組んでいます。



施工ステップ毎のイメージを3Dで共有し、関係者調整に使用



工事施工段階での活用（KY活動）

現在の進捗状況

架替工事中の県道枇杷島橋は、仮設の橋梁が完成し、交通切り替えが令和5年11月に完了しました。現在、旧橋（元々の県道枇杷島橋）の撤去工を実施中です。

また、県道枇杷島橋の架替工事の進捗に伴って取り付け道路の施工を行い、これまで最も低かった右岸堤防を令和6年6月に嵩上げしました。



県道枇杷島橋架替事業計画スケジュール

年度（令和）	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
迂回路仮橋工					（製作・設置）							（撤去）
旧橋撤去工					（撤去）							
新橋 下部工							（下部工）					
新橋 上部工							（上部工）					
道路工						現在						



現在（令和7年1月撮影）

庄内川

～令和6年5月
令和6年10月～

上部工撤去完了
下部工撤去開始

令和7年度事業概要

● 河川の維持管理、ダムの維持管理、地域連携

7 河川の維持管理

河川の流況把握

河川の状況監視や損傷確認、基礎データの収集などのため河川巡視、点検、観測等を実施します。



堤防の維持

堤防点検あるいは河川の状態把握のため、堤防の除草を実施します。



河川施設の現状把握・維持修繕

河川管理施設等の機能を確保するため、堤防・護岸・水門等施設の現状を把握し、河川管理上の支障の有無を確認し、適切な処置を講じます。



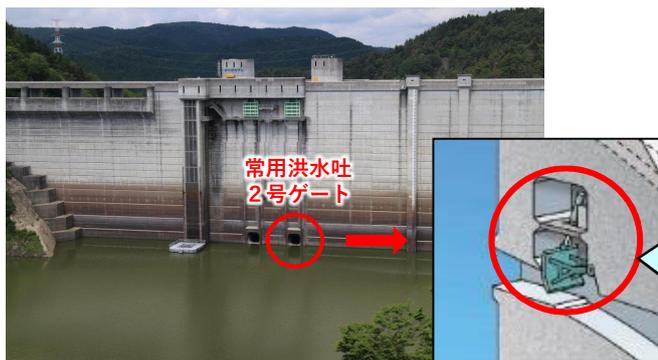
樹木伐採・維持掘削

河道内の樹木繁茂等により、河道断面が減少するため洪水の安全な流下等に支障となる箇所においては、樹木伐採や維持掘削を実施します。



8 ダムの維持管理

令和7年度は、通常のダム管理、並びに常用洪水吐2号ゲートの修繕工事、貯水池内の法面对策工事を継続して実施します。



地域連携

親しみの持てる庄内川であるよう、引き続き地域社会と一体となった川づくりを推進するため、河川協力団体やアダプト団体の活動支援を行います。また、環境教育や防災教育を推進し、災害時の緊急対策等に協力いただく団体（庄内川災害対策協力会）との連携を強化していきます。

河川協力団体・アダプト活動団体支援



環境教育・防災教育の推進



庄内川河川事務所では、庄内川（土岐川）と矢田川の直轄管理区間や小里川ダムの適正な維持管理のほか、関係機関と連携した流域治水や減災に関わる取組を推進しております。また、親しみもてる河川を目指し、地域社会と一体となった川づくりも推進しております。

●水防・危機管理に関する取組

洪水時の河川巡視、水防活動

庄内川河川事務所では、土岐川・庄内川が本格的な出水期（6月～10月）を迎える前に、洪水時に河川巡視や水防活動に携わる方々と合同で、重要水防箇所の巡視（確認）を実施しています。



出発式の様子（上条グラウンド）



庄内川下流部での巡視



多治見市区間での巡視



土岐防災センターの説明

大規模氾濫減災協議会

土岐川、庄内川が氾濫した場合の水害による被害の軽減に資する取組を総合的かつ、一体的に推進するために必要な協議を行うものとし、「水防災意識社会」の再構築を目的として、水防法第15条に基づく大規模氾濫減災協議会として「土岐川・庄内川の水害から命を守る会議」を設置しました。

土岐川・庄内川の「人命被害ゼロ」「社会経済被害の最小化」を目標に「土岐川・庄内川流域の減災に係る取組方針」に基づく減災に関わる取組を推進しております。



令和7年1月22日 会議状況

●流域治水の取組

流域治水協議会

気候変動による水災害リスクの増大に備えるためには、これまでの河川管理者等の取組に加えて、流域に関わる関係者が、主体的に取り組む社会を構築することが必要です。

庄内川流域では全国に先駆けて「流域治水協議会」を設立し、令和3年3月25日にプロジェクトをとりまとめました。また、令和6年2月19日に開催した協議会では、気候変動による水害リスク増大を踏まえた流域全体でのさらなる対策の方向性を「流域治水プロジェクト2.0」として更新しました。

土岐川・庄内川流域治水協議会

構成員
(34機関)

流域市町(18市5町)、岐阜県 県土整備部・都市建設部・林政部、愛知県 建設局・農林基盤局、東海農政局、中部森林管理局、岐阜地方気象台、名古屋地方気象台、多治見砂防国道事務所、庄内川河川事務所

オブザーバー
(10機関)

中部地方整備局 建設部・河川部、日本下水道事業団、中部電力(株)、中日本高速道路(株)、名古屋高速道路公社、岐阜県農政部、森林整備センター、東海旅客鉄道株式会社、環境省

【土岐川・庄内川流域治水協議会の取組】

- 第1回 庄内川流域治水協議会の設立
庄内川水系流域治水プロジェクト【素案】の提示
- 第2回 庄内川流域治水プロジェクト【中間とりまとめ】(案)の提示
指定区間を含めた本会議の拡充
- 第3回 リーディング地区での対策紹介
庄内川流域で行う流域治水の全体像の共有・検討
- 第4回 各自治体の課題の抽出・検討状況報告
オブザーバーの位置付け明記(新規参画含む)
- 第5回 「庄内川水系流域治水プロジェクト」とりまとめ
- 第6回 グリーンインフラの観点を追加
ロゴマーク作成、シンポジウム開催の決定
- 第7回 新規参画構成員(名古屋・岐阜地方気象台)・オブザーバー(JR東海、環境省)の取組の共有

流域治水シンポジウム (流域治水MOVIE上映、基調講演、パネルディスカッション、ロゴマーク)

- 第8回 ロゴマーク使用規程・使用ガイドラインの策定
- 第9回 グリーンインフラの取組を追加、実施状況フォローアップ
流域治水プロジェクトに基づく取組の「見える化」
- 第10回 自由研究の募集についての確認
- 第11回 土岐川・庄内川流域治水の自由研究の報告
実施状況フォローアップ
- 第12回 幹事会の設置
- 第13回 「庄内川水系流域治水プロジェクト2.0」とりまとめ
流域治水カード、流域治水学習ツール
- 第14回 流域治水プロジェクト2.0の実施状況のフォローアップ



令和3年3月25日 第5回流域治水協議会

グリーンインフラの取り組み

●グリーンインフラとは

庄内川の**自然環境が有する機能**を、社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方で、グリーンインフラ推進しています。対応すべき課題は、「国土の適切な管理」「安全・安心で持続可能な国土」「生活の質の向上」「人口減少・高齢化に対応した持続可能な社会の形成」とされています。

庄内川水系の現状の河川環境とこれまでの河川環境に関する取り組み

庄内川は、都市河川でありながら、豊かな自然環境を形成しており、特に、河口部では干潟とヨシ原が広がり、藤前干潟は国内最大級のシギ・チドリ類の渡来地としてラムサール条約湿地に登録されています。

上流域

- 盆地と渓谷地が連続し、渓谷部は瀬淵が連続
- 盆地部は絶滅危惧種のアカザ、砂礫河原はチドリ類等が生息・繁殖



中流域

- 瀬淵や砂礫の州が分布する多様な環境を形成
- アユやオイカワ、カワヨシノボリが生息・繁殖し、砂礫河原にチドリ類が生息・繁殖



下流域

- 水際にヨシ群落が形成。オオヨシキリ等の水鳥が生息・繁殖。また、絶滅危惧種ミゾコウジュ等が生育
- 河口部は、干潟とヨシ原が広がり、河口部の藤前干潟は、ラムサール条約湿地に登録



矢田川

- 砂礫河原や瀬淵環境が形成され、オイカワ等が生息・繁殖



これまでの取り組み

●レキ河原の再生事業

- ・流路が固定され、植生が侵入・定着したことによりレキ河原が減少
- ・陸地化・崖地化した箇所を切下げ、レキ河原を再生

【整備イメージ図】



【整備イメージ図】



●河川区間の利用促進を図る水辺整備

- ・多治見市にて平成29年度までに実施し、夢広場の整備や市民病院の整備にあわせ、管理用通路、階段護岸を整備した。



今後の河川環境への取り組み

今後は、治水対策と同様に「生物の生息・生育・繁殖の場」の目標を定量的に定めた上で、流域治水の推進と併せて流域での環境保全・整備にも展開していきます。

河川 : 河川環境の目標を明確化、多自然川づくりの一層の推進

流域 : 流域全体でグリーンインフラの取組を展開 など

庄内川の緑や水辺空間は、都市化の進んだ流域に残された貴重な自然空間となっており、動植物の生息・生育の場としても重要な空間です。今後は、地域の関係者が連携して川と水辺空間につながるまちを一体的に活性化する整備を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進していきます。

●自然環境の保全・復元などの自然再生

○干潟保全・再生

藤前干潟の保全／あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金を通じた民間団体による干潟保全活動等への支援

○ヨシ原再生

藤前干潟の保全／あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金を通じた民間団体によるヨシ原再生活動への支援

○河川の連続性の回復

フィッシュウェイ・サポーターとの協働による魚道点検／魚道整備

○水際環境の創出

矢田川バーブエプロジェクト

○レキ河原再生



レキ河原再生【国長橋下流】
(庄内川河川事務所)



藤前干潟の保全 (名古屋市)

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成、健全なる水循環系の確保

○休息地等の生息環境創出

五条川における生物生息調査と外来種生物の駆除／藤前干潟の保全／都心の生きもの復活事業

○大型水鳥等の採餌場保全

藤前干潟の保全

○浄化浚渫

河床掘削



五条川における生物生息調査と外来生物の駆除 (岩倉市)



●沿川の保水・遊水機能を有する土地を保全

○ため池

ため池の事前放流等による水位調整／ため池の保全、浚渫、機能強化／農業水利施設の活用／既存ため池の嵩上げ・余水吐の改良による雨水流出抑制／農業用ため池の低水位管理

○森林

森林保全／間伐等森林整備／砂防関係施設の整備／治山施設整備による森林の保全／あいち森と緑づくり里山林整備事業を通じた市民やNPOによる里山林の活用活動への支援

○遊水地

小田井遊水地の強化対策

○水田

畔の嵩上げ・排水路改修による雨水流出抑制／農業振興地域内農用地の保全



畔の嵩上げ・排水路改修による雨水流出用区政 (小牧市)



治山対策 (林野庁)

●治水対策における多自然川づくり、魅力ある水辺空間・賑わい創出

○整備における生物の多様な育成環境の保全

堤防整備、河道掘削／藤前干潟の保全／現地発生の巨礫を河岸に残し、砂州の回復等を実施

○水辺の賑わい空間創出

かわまちづくり／りばーびあ／河川沿いの桜並木を鑑賞できる遊歩道整備／河川空間の利用促進、水辺空間の利活用／「岩倉の水辺を守る会」による五条川におけるイベント／小田井遊水地の強化対策／水辺の緑の回廊事業

○ビオトープの整備

志段味ビオトープ／あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金を通じたNPOや民間団体によるビオトープ創出活動等への支援

○河川景観の保全・創出

河川の美化活動



りばーびあ (多治見市)



河川沿いの桜並木を鑑賞できる遊歩道整備 (瀬戸市)

●自然環境が有する多様な機能活用の取り組み

○小中学校などにおける河川環境学習

湧水モニタリング／水質環境目標市民モニタリング／庄内川啓発イベント・動画／親子ふれあい観察会／五条川流域の小学校児童による五条川水生生物調査／小学校における河川環境学習

○自然環境保全に関する協議会等の活動

藤前干潟の保全／身近な自然の再生／土岐川流域グリーンベルト／里山砂防／あいち森と緑づくり環境活動・学習推進事業交付金を通じたNPO等主催によるフォーラム、学習会等への支援／流域全体を対象とした清掃活動

○民間協働による水質調査

市民団体との協働による水質調査

○多様な関係者との連携

庄内川アダプト活動



親子ふれあい観覧会 (江南市)



庄内川啓発イベント (名古屋市)

流域治水の自分事化

流域治水を推進していくためには、協議会の関係者のみならず、住民・企業等の「流域治水」に対する認知度向上や意識醸成を行い、総力戦で実施していく必要があります。

● 流域治水の自分事化に向けて

庄内川の流域に関わる住民・企業など様々な方が流域治水を「自分事化」いただくために、普及・啓発に取り組んでいます。

- ・副読本を活用した防災教育、自由研究の応募を行っています。
- ・38種類の防災施設の説明が載っている、**流域治水カード**を作成しました。令和6年3月より、配布しています。



副読本

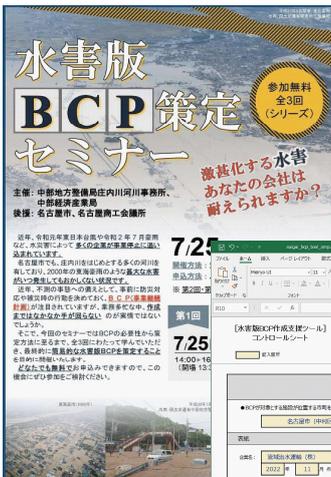


自由研究



流域治水カード

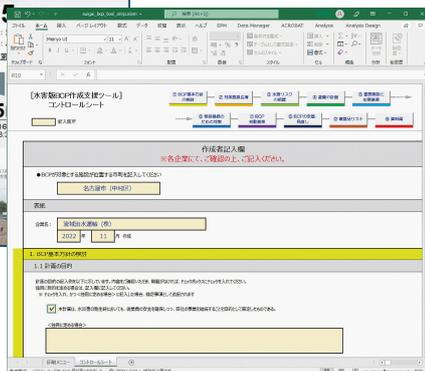
- ・**企業BCP**（災害時に、事業の継続や復旧を図るための計画）策定セミナーの開催、**タイムライン**（行うべき防災行動を時系列に整理した防災計画）の作成・周知を通じて、実施するべき具体的な行動を示しています。
- ・**水防協力団体**（水防活動に協力する団体）に指定された企業もあり、流域治水・自由研究の広報に協力いただきました。



支援ツール



タイムラインの作成・周知（左：恵那市、右：多治見市）



BCP策定支援



稲沢市の公式YouTube



水防協力団体の指定

「事業概要・庄内川水系流域治水プロジェクト」についてのお問い合わせは下記まで

●【土岐川・庄内川流域治水協議会事務局】お問い合わせ先

国土交通省 中部地方整備局 庄内川河川事務所

■ 住所 〒462-0052 愛知県名古屋市北区福德町5丁目5-2

■ 電話番号 052-914-6711

■ メールアドレス cbr-shonai00@mlit.go.jp



土岐川・庄内川流域治水協議会

WEB https://www.cbr.mlit.go.jp/shonai/bousai/ryuui_kisui_kyougikai/index.html

